

PROFILE

岡部 明 仁

西南女学院大学保健福祉学部栄養学科

この度、平成 29 年 4 月 1 日付で西南女学院大学保健福祉学部栄養学科教授を拝命いたしました、岡部明仁と申します。私は平成 6 年に九州大学理学部生物学科を卒業し、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科に進学しました。ここで、細胞構造学講座(現：神経機能科学講座)の塩坂貞夫教授(当時)に師事し、組織学的手法のみならず様々なことを教えていただきました。途中修士課程 2 年生から博士課程 1 年生の 2 年間で派遣大学院生として名古屋市立大学医学部第二生理学講座(当時、西野仁雄教授主催、現：脳神経生理学講座)にお世話になりました。名市大では、海馬スライス標本及び *in vivo* における LTP 誘導後のマウスニューロロピン遺伝子(マウス *KLK8*)の発現変化の検討や、イメージングのお手伝いなどをさせていただき、生理学的手法を学ばせていただきました。その後、奈良先端大に戻り、キンドリング(てんかん発作のモデル)動物を用いて、海馬内で生じる可塑的变化に関与するシアル酸転移酵素遺伝子の同定を行いました。

平成 11 年 4 月に浜松医科大学生理学第一講座(現：神経生理講座)の助手として採用され、福田敦夫教授のもとで能動的 Cl^- ホメオスタシスという概念を勉強させていただきました。平成 16 年 4 月よりドイツ連邦共和国のヨハネスグーテンベルグ大学(マインツ大学)の生理学病態生理学研究所(現：生理学研究所)の Heiko J. Luhmann 教授のもとに 2 年間の研究留学をしました。Luhmann 研では、幼若期の海馬で生じるてんかん発作のメカニズムに GABA やグリシン、さらにはタウリンがどのように関与しているのかを検討しました。

平成 18 年 9 月に兵庫医科大学生理学第一講座(現：生理学生体機能部門)の講師となり、発達過程における大脳皮質や海馬と細胞内 Cl^- 濃度との関係から、新たに延髄を研究の対象にすることになりました。同じ教室の准教授の荒田晶子先生からいただいた suggestion もあり、抑制性神経伝達物質(GABA やグリシンなど)及び Cl^- 共輸送体(KCC2 や NKCC1 など)が、延髄舌下神経核の発達及び成熟にどのように関わっているのかを解明したいと思うようになりました。

平成 24 年 4 月に琉球大学大学院医学研究科分子解剖学講座(高山千利教授主催)の助教として異動してからも、高山教授の寛大なお取り計らいにより、テーマを変えることなく研究を続けさせていただきました。もともと共同研究をさせていただいておりました尊敬できる方でしたので、お声がけいただいたときには大変嬉しかったのを覚えております。琉球大学では、組織学と神経解剖学の講義を新たに担当することになり、生理学教室で学んだことを踏まえて、機能に関わる内容を取り入れて話をするよう努力しました。

平成 29 年 4 月に西南女学院大学の教授を拝命し、これまでの研究を継続・発展させていけるような環境を整えているところです。教育面では「解剖生理分野」を担当することになり、生理学教室と解剖学教室の両方に在籍させていただいた経験を生かしつつ、学生に寄り添った教育を目指しています。生涯学習し続ける姿勢を彼女たちに持ってもらうためにも、ものごとを探求する楽しさや、発見した時の喜びなどを、講義や実習、あるいはゼミ・研究などを通して伝えていきながら、私も

一緒に成長していきたいと考えています。未熟者ではありますが、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

略歴

平成6年 九州大学理学部生物学科 卒業
平成11年 奈良先端科学技術大学院大学博士後
期課程 単位取得退学
平成11年 浜松医科大学生理学第一講座 助手
平成13年 博士(バイオサイエンス)取得(奈院
大)

平成16年 ドイツ連邦共和国ヨハネスグーテン
ベルグ大学(マインツ)生理学病態生
理学研究所生理学講座 ポストドク
ター
平成18年 兵庫医科大学生理学第一講座 講師
平成24年 琉球大学大学院医学研究科分子解剖
学講座 助教
平成24年 同上 准教授(学内)
平成25年 同上 准教授
平成29年 西南女学院大学保健福祉学部栄養学
科 教授